

基地関係特別委員会 会議録（要旨）

○ 開催年月日 平成 28 年 12 月 15 日（木）

午後 1 時 00 分 開会

午後 1 時 25 分 閉会

○ 場 所 第 3 常任委員会室

○ 出席委員（10名）

委員長	桃原 朗
委員	宮城 克
委員	山城 康弘
委員	濱元 朝晴
委員	桃原 功

副委員長	伊波 一男
委員	石川 慶
委員	伊佐 哲雄
委員	比嘉 憲康
委員	我如古 盛英

議長	大城 政利
----	-------

○ 欠席委員（0名）

○ 委員外議員（1名）

—	知念 吉男
---	-------

○ 説明員（0名）

○ 議会事務局職員出席者（2名）

課長	多和田 眞満
----	--------

議事係長	中村 誠
------	------

○ 協議案件

1. MV-22 オスプレイの名護市沿岸部への墜落事故に係る抗議決議等について

基地関係特別委員会 会議録（要旨）

平成 28 年 12 月 15 日（木）

○**桃原朗 委員長** ただいまから基地関係特別委員会を開会いたします。

（開会時刻 午後 1 時 00 分）

【協議事項】

MV-22 オスプレイの名護市沿岸部への墜落事故に係る抗議決議等について

○**桃原朗 委員長** 昨日、桃原功委員が作成した文案を配付したところではあるが、絆クラブからも文案の提出があることから配付してまいりたい。

（絆クラブ作成の文案を配付）

○**桃原朗 委員長** 絆クラブ作成の文案について、協議していただきたい。

○**桃原功 委員** 名護市東沿岸へ墜落したオスプレイは、3～4つに分裂し、原型をとどめないほど大破しており、どう見ても墜落である。その点からも絆クラブの文案のタイトルにある「不時着水」という表現は理解できない。政府や防衛省は不時着水という表現をしているが、我々議会はしっかり現実を見て表現するべきである。また、あわせて記の部分への「日米地位協定の抜本的改定」の追加もお願いしたい。

○**宮城克 委員** 「墜落」と「不時着」の意味を辞書で調べたところ、墜落は、パイロットの意思とは別に操縦不能で落ちること、不時着は、何らかのトラブルが生じパイロットの意思で目的地外に着陸することとなっている。それらを踏まえると、今回のケースは不時着でも道理が通るものと考えている。

○**山城康弘 委員** 所属している絆クラブの中でも墜落と不時着の議論を行った上で、先ほど宮城委員が述べたとおりの結論に至っている。

○**伊佐哲雄 委員** 市民へ目を向けたときに、よりインパクトのある表現で抗議を行うべきであり、市民も今回のケースは墜落としか見ないのではないか。

○**桃原功 委員** 辞書ではそうかもしれないが、操縦士の意思是、我々にはわかるものではない。また、文案の中にある「不時着水し大破した」という表現も、文脈的におかしいのではないか。

○**我如古盛英 委員** これ以上事故を起こさせないように、警告の意味も込めて墜落という強い表現がよいと考える。不時着であれば、ある程度の原型はとどめているものと思うが、機体の状況を見ても不時着水では納得できない。

○**山城康弘 委員** 四軍調整官の記者会見からは、パイロットが住宅地や陸地を避けた

ということが受け取れ、操縦不能ではなかったものと考えている。また機体の欠陥についても、報道によると、空中給油中に給油機のパイプにオスプレイのブレードが接触し欠損したことによる事故と認識しており、機体の欠陥とは別の話である。

○我如古盛英 委員 欠陥というのは、プロペラが2つあるがゆえに、1つの機種と比べ強風等に弱く、操縦が非常に難しいということである。今回の事故は、それが原因とは断定できないが、可能性は高いということである。安定した飛行機等であれば、このような事故は起きなかったのではないか。

○比嘉憲康 委員 名護市東沿岸におけるオスプレイの機体を見ると、墜落事故という認識である。ある程度、操縦が不能で住宅地を避けざるを得ないということからしても、墜落という表現が適切と考えている。

○伊波一男 委員 市民目線で取り組むことが重要と考えており、事故の状況を見ても、相当大破し、原型をとどめていないことから墜落事故と認識している。

○濱元朝晴 委員 各委員の意見も参考に、再度、会派へ持ち帰り協議してまいりたい。

○伊波一男 委員 公明党会派の意見として、「記」の部分へ「事故の原因を究明し公表すること」「普天間基地配備のオスプレイを即時飛行停止すること」「普天間基地配備のオスプレイの即時撤去」「普天間飛行場の1日も早い閉鎖返還と5年以内の運用停止をはじめとする危険性除去及び基地負担の軽減を早急に図ること」「在沖米軍より県民に謝罪をすること」を追加していただきたい。

○桃原朗 委員長 本件は文案調整のため会派持ち帰りとし、次回、16日（金）午後1時の委員会で引き続き協議してまいりたい。

【協議結果】

本件については文案調整のため、会派持ち帰りとし、次回の委員会で引き続き協議していくことに決定する。

○桃原朗 委員長 以上をもちまして、本日の基地関係特別委員会を閉会いたします。

閉会時刻（午後1時25分）